

子育て

Child care



楽しく生き生き野外遊び

真っ黒に日焼けした子どもが、泥んこになって遊んでいたのは一昔、二昔以上も前のこと。今は、子どもが安心して遊べる場所が少なくなり、また。そんな中、自然を教室に、野外遊びの活動を行っているのが、草津市にある「こんべいとう自然保育園」。園の、村長・山田貴子さんに、子どもが外の世界に接し、遊ぶことの意味について、お話を伺いました。

野外遊びが 自主性を育てる

NPO子どもネットワークセンター天気村が運営する「こんべいとう自然保育園」。この保育園の子どもたちは「お弁当、水筒、おしぼり、おやつ、着替え一式」をリュックサックに入れて登園します。それは「毎日が遠足」だから。子どもたちは園のバスに乗り、四季折々の山や川へ野外活動に出掛けます。

「子どもが野外で遊ぶ機会が少なくなってきた今、地域での野外遊びを通して、子ども本来の生き生きした姿を取り戻してほしい」。山田さんはそんな思いから、この自然保育園を開設しました。

自然の中で遊んだ体験が少ない親は、野外での遊びを「危ないからダメ。汚いからダメ」と否定しがち。しかし、子どもは山や川、公園や畑で自由に遊び、その中で「良いこと、悪いこと」「安全なこと、危険なこと」を体験することによって自主性が育つてくると、山田さんは確信しています。

子どもを通して 親も変わる

こんべいとう自然保育園の子どもたちの野外遊びには、保護者は同伴できない決まりになっています。入園当初は「けがでもしたら……」と不安がる親もいますが、親の保護



村長の山田さんと一緒に木登り



山には知らない生き物がいっぱい



みんなで火おこし

手作りのいかだでこぎ出すぞ～



夏は水辺で遊びます

がない”ことを自覚した子どもたちは、みるみるうちにたくましくなります。ここでは小さなけがは勲章。「小さなけがを経験することで、大きなけがに至らなくなる」と山田さん。例えば、けがをして泣いたとしても、「怖いからもうしないでおこう」ではなく、「次はどうやったらうまくいくか」と考える――。この子どもたちにとっては、冒険することの面白さ、何かをやり遂げたいという気

持ちのほうが、痛さや怖さに勝っているのです。

「親が先回りして、ああしたら、こうしたらと介入すると、子どもにとっては自分が頑張った実感が弱まり、達成感が希薄になります。子どもは、大人が思っている以上に判断能力があり、知恵を持っています。それを認めて、見守ることによって、子ども自身が「子育て、してくれます」と山田さんは言います。

とはいえ、子どもの好き勝手を黙認するというわけではありません。遊びにも一定のルールがあることを分かった上で、納得いくまで遊ばせる。そのことによって、子どもはルールの中で動く楽しさを知っていきます。

最初、泥んこになって戻ってくる子どもたちを、驚きの目で見ていた親も、やがて「子どもにとって必要なもの」は何かということが分かってきます。子どもを通して、親自身も変わっていくのです。

社会性をはぐくむ外遊び

最近の子どもたちは体力だけでなく、いろいろな面でひ弱

になったといわれます。例えば、人と触れ合い、誰とでも言葉を交わすといった、社会性もそうです。

「核家族で育った子どもたちは、大人や地域とのかかわりが極端に希薄」。このようにみる山田さんは、幼児期にいろいろな大人と接することで子どもの「社会性」が伸ばせると考え、地域のひととの交流を園の活動に取り入れました。春は田植え、秋は稲刈り、冬はしめ縄作りなど、地域のひとと一緒に作業に励んだり、時には収穫した野菜で料理を作ったり。大人のすることに興味津々の子どもたちは、喜んで手伝うといえます。

野外活動も含め、マニュアル通りに活動しないのが持ち味であるこの園の場合、行った先で思わぬハプニングに出くわすことも。そんなときは、園児たちも一緒に事態の成り行きを見守ります。

「何でも滞りなく終わるなんてつまらないでしょう。滞ったり、事件が起きたりしてこそ学べるものがあるんです」山田さんはこう言います。子どもだから、見せない、聞かせないではなく、いろんな場面に立ち

会う。そのことによって、子どもたちは生きる力を身に付けていくのです。

子どもの好奇心に応える

都会暮らしの人にとって、子どもを自然の中で遊ばせるということは、かなり難しいといえるかもしれません。しかし、週末や休暇を利用して家族で山や川に出掛けるだけでも、気分が変わり、子どもたちは喜びます。山田さんは「子どもにとって山や川だけが自然ではありません。大人が声をかけてやり、子どもの驚きや、好奇心、好きなことに反応を示してやるのが、子どもにとって一番の環境で自然な姿なのです」とも言います。どこにいても、どの町に住んでも、地域の大人は、子どもが興味や関心のあることを見つけ、それが将来生きていく礎になるように見守っていくことが大切なのではないでしょうか。



京都でも自然に親しむ活動が行われています

法然院森のセンター

●シリーズ自然観察会
(随時参加可能)

専門講師の指導を受けながら、季節ごとに身近な自然に親しむ活動を実施。ほかに、幼児から大人まで参加できるオープンルームも開講。

●森の子クラブ(会員制)

環境学習活動の実践として、身の回りの環境を子どもたちの目で見つめることを目的とし、月に一回、4月から1年間、同じメンバーで季節の体験を積み重ねていきます。募集は毎年3月。小学校3年生以上、定員30人まで受け付け。問い合わせ先

京都市左京区鹿ヶ谷

法然院町72-2

法然院森のセンター

電話：0757524582

<http://www4.onn.ne.jp/moricent/>

お話を聞いた方

NPO子どもネットワークセンター 天気村
こんべいとう自然保育園 村長

山田貴子

(やまだ たかこ) さん

草津市東草津1丁目5

Tel. 077-564-7868

<http://www.biwako.ne.jp/~nt-tenki/>